

むさし野

No. 52

事務局 〒350-0822 川越市山田914-9 石井方
 電話・FAX 049-225-2466
 E-mail:ishii.0525@r8.dion.ne.jp
 ホームページ: <http://www.longview.jp/musashino/>

2015年度総会を開催、講演会では「ユーモアのすすめ」 今後も懇親と勉強会で一層の交流を

法政むさし野会の2015年(平成27年)度定期総会および講演会が6月14日(日)、「武蔵浦和コミュニティーセンター」8階6号室において開催されました。

総会には、会員19名が出席。小林幹事の司会により、まず大野幹事の開会のことばのあと、石井会長があいさつを行いました。次いで議長に石井会長を選出した後、議案の審議に入りました。

第1号議案「2014年度活動報告について」は筑井副会長が説明。第2号議案「2014年度収支決算」は大川会計担当幹事の説明のあと、小林幹事が鑑査報告を行いました。どちらも異議なく承認されました。

第3号議案「2015年度活動方針(案)について」は石井会長、第4号議案「2015年度予算(案)について」は大川会計担当幹事が説明を行いました。質疑では会報の内容についての提案があり、今後、より慎重な編集・校正を行っていくことになりました。これにより両案とも承認され、最後に宇佐美幹事の閉会のことばをもって議事を終了しました。

第2部の講演会では北沢正嗣氏(彩の国いきがい大学講師。NP0シニア大衆講師)を迎えて、『生涯楽習 ユーモアのすすめ。笑いは百薬の長、健康長寿、コミュニケーションは笑いから始めましょう』と題して、約1時間半にわたりユーモアと実感あふれるお話をいただきました。

第3部の茶話会は、筑井副会長の司会・進行で始まり、今回初参加の藤尾祐子さんを皮切りに、自己紹介や近況報告などさまざまな話題が語られました。恒例の会場展示コーナー出展者は、鳥海美智子：俳句同人月刊誌『紫』(2015年1月号ほか)。終了は17時でした。

＜北沢さんの講演要旨＞

「こうみえても、私は、関東ではほとんど知られていませんが、関西では、まったく知られていません」と最初からお笑いモードに入った北沢さんです。

元は電気関係の仕事をしていたが、定年後に家になることになった。何もせずに家にいると余計者のようにな



講師の北沢さんを囲んで記念撮影

るので外に出ることにした。最初に「ユーモアスピーチの会」で話し方を学んだ。そのコツは「話題と話し方」および「場所と相手」に合わせること。その場の雰囲気によって通じる通じないがある。

駄洒落とはいわばつまらない洒落、ユーモアとはそうではなく、上品な洒落。駄洒落は頭でつくられ、ユーモアは心で生まれる温かみのある笑いということ。

欧米の笑い日本人の笑い(ユーモア)に違いがある。多民族で多国家の混在した欧米で言葉で言わないとわからないことが多く、あいさつやユーモアは人間関係に不可欠なもの。対して日本人は以心伝心や阿吽の呼吸なんて言葉があり、あいさつやユーモアが不可欠なものになっていない。それでもやっていける。

欧米人は、たとえ余裕のない時でもユーモアをいう。ウォータゲート事件で捕まった時や飛行機の緊急機内放送でもそういう例があった。対して(事実かどうか別として)日本の某元首相のように相手のユーモアにもつまらない答え方しかできない例が多いようだ。

ユーモア・笑いには癒しや健康長寿をもたらす効果がある。免疫力や自然治癒力が向上するという研究結果がある。血流の増加やホルモンなどの分泌が増えるら

総会でのあいさつ

会長 石井 満

本日は「法政むさし野会」総会にご出席頂き有難うございます。本日の出席予定者は19名と例年より少なめですが、これも「会」の高齢化に関係して来ていると思います。他方「会」の活動は順調です。昨年は会報「むさし野50記念号」を発行いたしました。会員や大学関係者の方々26名のかたにご寄稿を頂きました。秋の催し「平林寺散策と睡足軒での宮川さんの御点前」は素晴らしい秋の一日を満喫致しました。また、二月の勉強会は

小林さんの技術開発・研究を沿革や研究内容までご説明頂き大変勉強になりました。

本日の講演はさいたま市に本部を置いている「彩講会」から北沢正嗣先生をお招きしております。楽しいお話が聞けるとおもいます。今日は法政同窓生の一人でも多くの方とお話をされます事を希望いたしまして、私の挨拶に致します。



しい。あまり面白くなくても笑った方がいい。ただし、本当に悲しい時に笑うのはよくないそうだ。

歳をとり、よりよい老後を過ごすためには、自立力



を高め、たくさんの会話をすることが大切。「短気、頑固、我儘」という「性格習慣病」を直し、お金持ちから人持ち（たくさんの友人）になりましょう。（以上はレジメや私の記憶などで講演を要約していますのであまり面白くありませんがご寛容を一筑井）

＜総会における質疑に対する応答＞

総会の記事でも触れていますが、今回の総会で、矢田会員及び大川会員より「会報の誤植が散見される。会の品格・学識を疑われても仕方が無い。誤植防止の対策を講ずべきだ」という意見がありました。これについて、会報編集を行っている役員4名は総会後の8月20日に合議のうえ、2回校正を行うことで誤植をある程度防げる見込み案を決め、その旨を質問の有った矢田会員・大川会員に連絡了承を取る事に致しました。また、会報にも掲載する事に致しました。ご了解ください。【誤りは総会資料（報告・計画・決算・予算）のほか小林会員の記事にもありました。お詫びいたします】

会員の声

「会への連絡はがき」から（敬称略 原文のまま）

大川成一 役員の努力と会員の協力の成果で充実した活動だと感じています。いつもささやかな菜園、朝ドラ、コンピューター囲碁対決を楽しみにしています。会も自分自身も自然体で長続きできるように願っています。

筑井信明 毎日結構忙しくしています。「忙」とは心無くすではなくて「心を奪われる」という意味だそうです。時間を忘れるほど夢中になれるということは幸福の大前提です。

石井満 自分の趣味である英語と絵を描くことにより多くの時間を当てたいと思っている昨今です。

菅井肇 介護の仕事に就職して約3年過ぎようとしていますが自分自身としては、まだ一人前の介護職員ではないことに気づいたのが、新人職員が入ってからでしょうか？これからも介護の勉強と仕事の両立は大変だ

と思いますが少しでも変わった自分が発見できるようにならばいいと思います。

塩入基臣 借地菜園が三倍に広がり今年から勢いが違います。自宅から近い農園が27年も続けられたのは趣味からの出発だからなのですが、いまや甲府にも農園らしき場所を所有するようになりました。その結果、水遣りと雑草に苦労しております。鍵の仕事、シルバー人材、英語家庭教師として活躍中です。

飯田桂子 昨年秋の平林寺散策が気に入って、春の平林寺散策を4月上旬に企画、仲間4人と新緑の素晴らしさを満喫してきました。

吉田登美子 昨年から又出席させていただいておりますが、和やかな総会に今年も期待を大にしております。

大野正雄 5/10に久しぶりに東京六大学野球の観戦に行きました。校歌、応援歌を聞き多感な青春時代と学

生時代を思い起こし人生その頃が華やかだったのかなと思いました。試合後のエール交換は何時間聞いても独特な雰囲気、これぞ歴史と伝統なのでしょう。

押切次夫 草加市町づくり会議の登録員になっています。60歳の定年を過ぎて何かできないかと思って草加市の町づくりに協力しています。

宇佐美善夫 昨年は二度三度と病院に入院した一年でした。健康に注意してむさし野会に出席できることを心がけています。東京六大学の野球優勝できることを祈りつつ。

小林薫 昨年約40年ぶりに専門学校時代の仲間と福島県いわき市で同窓会を行いました。実際に現地を拝見した限りでは復興にはまだ程遠いのを肌で感じました。それでも参加者全員でお土産を購入して現地を後にしました。

影山五月 4月12日に任期を終えて帰国しました。60歳過ぎて自分の好きなことができていることに本当に周囲の人に感謝のみです。ゆっくり過ぎていく南国の暮らしは楽しかったです。法政大学で学んだ時は本当に多くの本を読みました。とても大切なときでした。

及川勝敏 現在仏教学を勉強しており、今秋はその総決算としてインドへの研修旅行に参加する予定です。

田中照貢 私の住んでいる飯能は法政のある市ヶ谷には池袋に行って有楽町線に乗っていく方法と、小竹向原を通っていく方法があり、小竹向原を通ると30円ほど高いのですが乗り換えが便利なのでこちらの方法がふえつつあります。

下鳥キヨ子 我が家の前には東洋大学の板倉キャンパスがあります。近年女子陸上が創部され朝夕などランニン

グをしている女子学生を見かけます。毎年箱根駅伝でも東洋大学の活躍は素晴らしく女子陸上部にもがんばってほしいと思います。

中野次雄 川越流鏑馬が地元にある国指定川越館跡で行われました。私も地元代表として参加し出陣式は古刹常楽寺にて狩衣装束で祈願したのち乗馬にて会場到着後開会宣言も行い素晴らしい一日となりました。遠い河越の歴史に思いを馳せ、夏草や兵共が夢の跡。

渡部佐知雄 最も時間を割いているのが家庭菜園です。このほかにはシルバー人材センターの仕事、町の体育館の守衛作業に風呂掃除、時間を作り出しては趣味のカラオケに出かけたりの日々です。自戒の念もありますが自分の生き方を変えられない高齢者のせいかもしれません。

黒木良一 先日は香取神宮に参拝。海ホテルスカイツリー等遊んできました。先日完成した家に引越しし心身ともに落ち着きパートに精を出しています。

竹村栄雄 実はエスカレーターで転倒して肋骨にひびが入り冷シップをしてバンドを締め付けている状態です。少しは歩けるようになりましたが遠距離は歩けない状態です。

宮川幸佳 5/10の坂戸市下田遺跡の現地説明会では、会長はじめとする会員の方々にいらしていただき、盛況に無事に終了することができました。ありがとうございました。

鳥海美智子 むさし野会51号ありがとうございます。総会を楽しみにしております。

桃木良子 先日は色々ありがとうございます。可愛い方たちにお目にかかり大変うれしかったです。

母校を訪ねる

内田吉久（さいたま市）

四月下旬、深谷市のホテルで往年の悪童連の米寿を記念した同窓会が開かれ参加した。定刻前に到着したので、先着の同僚と近況を語るうちに開会になった。何人かの旧友が最近故人になったとの悲しい話が出た。定刻に出席予定者が集合したので、記念写真を撮った。

卒業者六百拾余名、出席者十二名は予想していた人数より少なかった。少々残念。幹事宛の欠席者二十名程は、健康上の理由であった。出席出来た事を感謝した。幹事諸兄にも「ご苦労さん」の声を掛けた。懇談・会食も和やかに終了して、名残を惜しんで散会した。

散会后、娘の車で母校・埼玉県立深谷商業高校に立ち寄ることにした。先年の新聞記事で創立当時の校舎、特に本館・現深商資料記念館大正十一年（1922）建設

の本館校舎木造二階建てが、創立当時の色彩が某研究者の努力で発見されて、改めて塗り替えられたとのこと記憶していた。久しぶりに訪れた母校は鮮やかな黄緑系統の萌黄（もえぎ）色の校舎は別の学校かと思った。通用門の右手に立ち思い出深く校舎を見上げた。雨樋の先端部分の細部にも手が加えられていた。「国登録有形文化財」に認定された旨の小さな木札が立っていた。在学当時の教室を眺めて恩師の姿、旧友の学習風景を回想しながら一巡して、車に帰った。娘は何故か高校の色彩を知っていたので特に興味を示さなかった。

籠原駅近くまで旧中山道・旧十七号線を経て左折して十七号バイパスに入って帰宅した。途中の景色が開発されて大きく変わってしまったのでビックリした。無事帰宅した。

こしがや能の鑑賞と庭園巡り

次回の見学会は、2015年10月25（日） 越谷能楽堂に集合

第29回勉強会は「越谷市の「こしがや能第23回秋の調べ」の鑑賞です。能の演目は「狂言：清水」「能：菊慈童」他です。能楽堂のある日本庭園（埼玉県内では最高の庭といわれています）も散策できます。

- ・日時 2015（平成27）年10月25日（日） 13時00分～15時35分
- ・集合場所 こしがや能楽堂（東武スカイツリーライン 越谷駅東口より花田循環又は市立図書館行きバス花田苑入り口下車徒歩3分）
- ・料金 3000円 ＊自由席観賞料金のみ
- ・申込 9月30日までに石井満（表紙に連絡先）にご連絡願います。

＊詳しい内容は参加申し込み者に後日ご連絡いたします。日本芸能の原型である能を是非一緒に観賞したいと思って折りました。越谷市に観世流関根家が在住していたことからの縁との事。能楽堂は日本庭園「花田苑」内にあり、当日散策することができます。



平林寺の散策

吉田登美子（会員）

「新座の平林寺で紅葉散歩とお茶の会」に参加してみた。それは「法政むさし野会」の誘いであった。以前、母校の国文学会で山中湖近くの三島や蘇峰の文学館を訪れた晩秋の其々の記念館は紅葉に埋まるような風景で、未だ忘れられずにいた。今回、期待しながらの参加で総勢十五名であった。

先頭に続き後方を暫く歩くと、道脇直ぐに堀があり、これに沿って遊歩道があった。雑木林の中のこの堀の周囲は、この時期ならではの色づきつつある葉の風情を感じながら歩いて行くと、[野火止用水]についての説明の立て看板があった。歩いていた遊歩道と堀は野火止用水だったのだ。林は平林寺境内、お喋りしながらの鈍感な私も気づいた。

平林寺門前に二人の観光ボランティアが待っていて、男女に別れて、十二時までの僅かな時間であったが説明を受けた。

平林寺は臨済宗妙心寺派の寺で徳川時代に川越城主松平信綱公が岩槻にあった平林寺からこの野火止に移した。この寺には松平家一族がその時代の威容を今に伝えている立派な石灯炉が一行に並ぶ。墓所への通路は未だ一族のみの通路になっており、皇族でも使用は敵わぬと言う説明であった。

岩槻の平林寺は低地の為高層地の野火止に移したのだと言う。然し其処は水利の欠如の地でもあったので、玉川から水を引き込むという大変な事業を四百年前に松平信綱親子が成し遂げていたのである。

ボランティアさんの説明は時間の制約が有るため要所のみ的一部分であった。紅葉の盛りはその年による。もみじの種類が多いこの寺の紅葉は色づき始めて、真っ盛りを連想させた。

睡足軒での茶会はこの会のメンバーの宮川さんが和服姿でお薄を点てての接待であった。スカイツリーが出来てから話題になった日本画に既に描かれていたと言われたコピーのその茶碗も使われその話題に座は一段と和んできていた。

帰宅後当日貰ったプリントをめくっていたら、^{なりひら}業平塚が松平家の墓所のずっと奥にあることを知った。野火止塚については伊勢物語がすぐに浮かんだが、念のため新座市の観光課に聴いてみた。職員はその日の夕方の返事で『伊勢物語』の中の和歌にこの野火止の地が歌われていると言う事であった。

その歌は

武蔵野は今日はな焼きそ若草の

夫も籠もれり我も籠もれり

しかしこの歌は古今集にある巻第一春上、「春日野は」を「武蔵野は」に変えたもので伊勢物語の第十二段の歌、東くだりにこの歌がある。意は武蔵野を今日は焼かないで下さい若草の様に愛しい夫も身を潜め私も茲にかくれているのですから。

「野火止」とは業平が連れてきた女性を捕えるために山に火を付けたが、この地で火が消えた事がこの名の由来だったのである。

◆今号の言葉◆

暑い夏が終わり、秋風を感じると読書の秋に入ります。『万葉集』の額田王は、春山の花と秋山の葉を競えば「秋山我は」と詠っています。又、『枕草子』の清少納言は、秋は夕暮れが趣があって良い、風の音や虫の音などもすばらしいと詠っています。そうした情緒感日本人の「もののあわれ」と重なって現代に生きる私達の心にも脈々と流れているのではないかと思います。やはり、私も秋はもの想いにふける気持ちになります。(榊原)